

Books of the Month

今月の本

みんなの研究倫理入門

臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか

著：田代志門

発行：医学書院

TEL：03-3817-5650

定価：2640 円（本体 2400 円＋税 10%）

手続きとしての研究倫理に辟易している人必読。研究倫理の基本的な考え方を知る上で必須の 4 つのトピックは、深くて新しい研究倫理の世界を開く。症例報告に倫理審査は必要？ 患者への謝礼はいくらなら許される？ 弱者とは誰か？ そんな身近な疑問をめぐる対話から出合う研究倫理は、思いのほか知的で面白い。



臨床判断ティーチングメソッド

著：三浦友理子・奥裕美

発行：医学書院

TEL：03-3817-5650

定価：2860 円（本体 2600 円＋税 10%）

臨床判断能力がますます求められる医療現場。本書では、「看護師らしい思考」を表現したタナーの臨床判断モデルをもとに、学生・新人看護師の実践につながる学びをわかりやすく紹介する。教育学の最新の知見とともに、学生から新人、エキスパートへと、看護師の熟達をサポートする 1 冊。リフレクションや研修の枠組みにも最適。



「身体拘束最小化」を実現した松沢病院の方法とプロセスを全公開

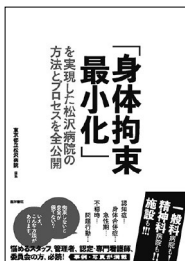
編集：東京都立松沢病院

発行：医学書院

TEL：03-3817-5650

定価：2420 円（本体 2200 円＋税 10%）

身体拘束を何十年も当たり前に行ってきた松沢病院が、「縛らない病院」へと方針を大転換。そこから実際に現場が変わるまでのプロセスを解説する。「こんなときはこうして解決した」という具体的な考え方と写真、テクニックは、これから取り組むあらゆる組織の参考になる。変わっていく現場を生で体験したスタッフたちの「裏話座談会」も秀逸。



救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイド

監修：日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会

発行：医学書院

TEL：03-3817-5650

定価：3960 円（本体 3600 円＋税 10%）

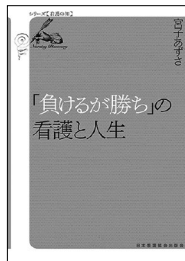
突然終末期を迎えた患者への意思決定支援や、短時間で信頼関係の構築を求められるなど、特有の悩みと困難さを伴う救急・集中ケア領域の終末期看護。よりよい看護を実践するために、終末期看護の概念を多角的側面から整理し、臨床で活用できる具体的なケアを提案。その人らしい最期のために、日々の看護に活用できる実践的ガイド。



シリーズ【看護の知】・06 「負けるが勝ち」の看護と人生

著：宮子あずさ
発行：日本看護協会出版会
TEL：0436-23-3271
定価：2420 円（本体 2200 円＋税 10%）

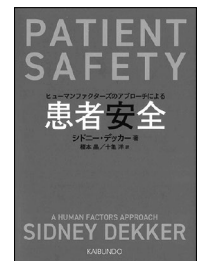
さまざまな制約の理不尽さを感じながらも、女性が自立できる職業を選んだ看護師。病いの理不尽さから、看護師に怒りをぶつける患者。看護師は不条理を痛感しながらも、看護師としての責任を負う。看護も人生も、時に挫折しても「負けるが勝ち」と誠意を尽くすことで勝利に転換する可能性がある。宮子あずさ流「看護と人生」の研究本。



ヒューマンファクターズのアプローチによる 患者安全

著：シドニー・デッカー
訳：榎本晶，十亀洋
発行：海文堂出版
TEL：03-3815-3291
定価：4400 円（本体 4000 円＋税 10%）

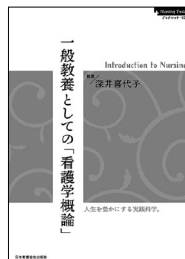
患者安全は、安全とリスクの責任を現場にだけ負わせるのではなく、リスクの発生源をシステム内部のあらゆる場所で探し続けることでつくり出すことができる。本書はチームワークと協調からコミュニケーション、認知プロセス、組織、経済的・人的資源、技術と機器、政治情勢、職場の文化まで、多岐にわたるリスク発生のポイントを解説する。



Nursing Today ブックレット・05 一般教養としての「看護学概論」

著：深井喜代子
発行：日本看護協会出版会
TEL：0436-23-3271
定価：990 円（本体 900 円＋税 10%）

神経生理学者から看護学者へ転向した著者にとって、「看護」は“人生を豊かにしてくれるもの”。看護のエッセンスが詰まった「看護学概論」は、“誰もが当たり前携えておくべき生きる知恵”である。その「看護学概論」を総合大学の一般教養科目に位置づけた魅力的な講義は、医療・看護に馴染みのない学生たちをも引きつけた。



認知症 plus 身体疾患

加齢変化をふまえた適切な
治療とケアのためのかわり

編著：高山成子，大津美香，久米真代
発行：日本看護協会出版会
TEL：0436-23-3271
定価：2640 円（本体 2400 円＋税 10%）

身体疾患の悪化で入院した認知症高齢者が、認知症を悪化させずに適切な治療を受け、回復するためのケアのポイントを解説する。認知症高齢者特有の表現や治療の経過で起こりやすい状況を理解し、予測した上でケアすることを提案。認知症高齢者への丁寧な対応が難しい現場でも「これならできそう」と思えるヒントがある。

